

## SMR 構想検討会への参考意見（委員・井口典夫）

## 1．経済社会の動き

- ・先進国経済：知識で稼ぐ時代（モノづくり＝利益率低く、場所も容易に移転可能）
- ・産業のコメ：人（才能・技術・発信力のある人材）と文化（企業・地域社会・都市・国）
- ・競争の態様：主に都市単位での人（移転可能）と文化（移転不能）をめぐる競争
- ・必要条件：寛容なコミュニティ（企業・業界団体・社会・自治体・国等々）

## 2．ライフスタイルの変化

- ・「自分らしく」「かっこよく」生きることが多くの人々の望み
- ・少子高齢化社会においてライフスタイルは中高年（所得高い、時間あり）がリードする
- ・若者（所得低い、情報過多で多様化、流行りや所有欲がない、シェアリング貧乏）が追随する
- ・「学ぶ、働く、遊ぶ、住む（結婚・出産・離婚・再婚・事実婚・卒婚）」などの多元連立方程式
- ・どこに住むかで人生が決まる（国内外含め複数の家を持つ、引越しを繰り返す）
- ・複数の本業を持ち、「働く、遊ぶ、学ぶ」を常時同時進行できること

## 3．SMR の持つ意味

- ・競争相手は国内外のすべての都市（例えば国内三都市は相互にライバル関係）
- ・他都市とどう差別化するか（例えば東京はいかに他都市に勝つか）
- ・格差は成果：トップを競うレースなので当然に格差は広がる（格差是正は社会政策で）
- ・SMR の経済：人（知識）と文化が共有されることのグローバルな視点での価値

## 4．リニア新幹線の効果

- ・高速道路ではないので物流への影響は少ない、空港利便ではないので海外関係も間接的
- ・1時間で結ばれば人（知識）と文化が共有される（1st ハウスは三都市のどれかで良くなる）
- ・世界の人々の求める新たな財・サービスを考案できる資源（人・文化）や機会が増す
- ・東京スタイルが名古屋・大阪を席卷するのか、三都市 SMR が世界に存在感を示すのか

## 5．国土計画的な視点

- ・選択と集中による効率化：SMR とそれ以外に区分＋各区分に合った方策の提示（例えば SMR = 包括的恒久的な容積率緩和、SMR 以外 = 食料・エネルギー基地、観光拠点、里山、防衛基地等）
- ・住宅・教育・医療や防災対応：SMR（人が集中して住む場所）に集中して財政負担を軽減する
- ・海外各都市との交互作用を織り込む：外への働きかけ、外からの受入れ  
 <事例> 働き場として魅力ある中国深圳や芸術文化拠点である香港・シンガポール・台北とどう繋げるか、モノづくりで期待されるベトナムやミャンマーをどうサポートするか、ニセコでスキーを楽しむオーストラリア人向けの施策をどう展開するか（グローバルな視点から海外の諸都市の絵姿も描き発信する：中国の一带一路政策）
- ・安全保障上の観点から別途、点検・修正の必要あり

## 6．SMR 評価のポイント

- ・生産面の時間短縮（コスト節減）効果は、今回の評価になじまないのでは
- ・三都市について「SMR の経済」を定義し、その一部でも定量評価できるようにしたい

## 7．小括

- ・これまでの議論：モノ・技術、コスト（時間短縮）、若者、国内都市、格差、交通インフラ
- ・今後の展開：人・文化、ベネフィット（感動）、中高年、外国都市、差別化、コミュニティ

以上、**論点1**をイメージした現時点での私的なもの。今後、SMR 構想検討会に参加する中で根本から考え直すことを大いに想定・期待しています。